

福井市(福井県)ほか:えちぜん鉄道

運行休止から第3セクター立ち上げによる鉄道の再生

人口	269,144人 (福井市)	モード	鉄軌道
面積	536.17km ² (福井市)	法令	—
人口密度	501.98人/km ²	運営主体	えちぜん鉄道



■ 取組の背景

地域と交通の状況

【公共交通の利用者減少】【生活交通の確保】

- 京福電気鉄道福井鉄道部の鉄道事業(越前線)は、昭和40年以降、人口の都市部への集中、モータリゼーションの進展等により輸送人員の減少が続き、さらに近年では少子化や長引く不況により収支は悪化の一途をたどったため、同社は、平成4年2月に越前線の一部について廃止を表明した。その後、平成9年に福井県及び沿線市町村で構成される「京福越前線活性化協議会」が設置され、越前線存続のための協議がなされた結果、協議会を通じた欠損補助等の行政支援を受けつつ、事業が継続された。
- しかし、平成12年12月、平成13年6月と2度にわたる列車衝突事故の結果、電車の運行停止を余儀なくされ、それに伴う鉄道収入の減少や代行バスに係る費用増等による収支悪化等により、同社は単独による運転再開は不可能であると判断し、平成13年10月に越前線全線の廃止届出を国土交通大臣に提出した。
- これに対し、県及び沿線市町村では、京福越前線が通勤・通学等の沿線住民の重要な交通手段であることや進展する高齢化社会への福祉対策に必要であることなどの理由から、平成14年9月、福井市等9市町村(現5市町)が出資する第3セクター、「えちぜん鉄道」を設立し、路線の存続及び活性化を図ることとした。

活用メニュー(制度・協議会等)

【近代化補助】【都道府県の補助(鉄軌道)】

- 上下分離の考え方により、福井県が鉄道軌道近代化設備費補助を活用して安全のための設備投資と鉄道資産の取得を行い、沿線市町村が第3セクターへの資本参加により経営と利用促進に責任を持つこととなった。

■ 実現したサービス

サービス内容

【運賃の工夫】【サイクルトレイン導入】

- えちぜん鉄道では、次のような新たなサービスを実現した。
 - 運賃を見直し、平均15%の値下げを行った。
 - 往復乗車券と沿線の温泉の入浴券をセットにして割引した「湯ったりきっぷセット券」、福井鉄道と共同開発した全線乗り放題の「福井鉄道・えちぜん鉄道共通1日フリーきっぷ」(大人1,200円、子供600円)といった各種企画乗車券を導入。
 - JR、福井鉄道、バス等との結節を強化したダイヤ改正を実施。
 - 新駅を開業(日華化学前駅、八ツ島駅の2駅が平成19年9月に開業)。
 - 地元とタイアップした山菜取りツアー等の企画。
 - 期間限定のサイクルトレインの導入。
 - 車内サービスや沿線案内を行うアテンダントの導入。
 - お客様相談室の設置。
- 地域としては、観光協会や自治会等が「えちぜん鉄道サポート会」を設置し、イベントや催し物の支援を行っている(平成19年度には243団体、19,926名の利用実績)。
- ボランティアが駅周辺の清掃・美化活動を行っている(平成19年度には30団体、1,041名が参加)。
- 年会費1,000円でえちぜん鉄道の乗車券を1割引で利用できるといった特典のある「サポーターズクラブ」が設立されている(平成19年度会員3,403名)。

■ 効果と負担

効果

【利用者数の増加】

- 第3セクターとして存続後、利用者数は増加している。

表. 利用人員の推移

(千人)

年 度	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度
利用人員	1,383	2,425	2,795	2,918	3,071

出典：えちぜん鉄道資料

負担

【市町村負担】【都道府県負担】

- 福井県は事業用資産を 35 億円で取得。さらに運行再開に必要な設備投資 7.6 億円、10 年間の設備投資 39 億円を負担することとした。
- 沿線 9 市町村は約 70%の資本参加を行い 3.75 億円を負担したほか、赤字補填として 10 年間で 27.4 億円を負担する。

■ プロセスと調整

自治体と住民の連携

【連携:住民】

- 旧越前線存続のため任意の団体で活動した団体として、区長会を中心とした各町内の組織、「電車利用促進会議」、「電車存続促進会議」等が結成されるなど、鉄道に対する地元のサポート団体が複数存在していた。
- また当時、福井市、勝山市、松岡町、永平寺町、上志比村、春江町、坂井町、三国町、芦原町 9 市町（現在は福井市、勝山市、坂井市、あわら市、永平寺町の 5 市町）が沿線に存在している中で、福井県が第3セクター化による鉄道線の存続に向けて主体的に働きかけ、それを受けた沿線市町村が財政面も含め積極的に関与を行うなど、関係自治体の支援の歩調が合わせられた。このことにより運転再開に必要な初期投資額や 10 年間の維持管理コスト等を福井県と沿線自治体が負担することが決まり、第3セクターによる事業承継をスムーズに運ぶことができた。

■ 創意工夫・知見・教訓

鉄道の存在意義の確認

【知見:既存資産の活用】

- 平成 13 年 6 月に電車の運行停止によるバス代行で、利用者数は半分以下になった。この結果、マイカー送迎による道路渋滞が発生し、地域社会に混乱が生じた。
- このような状況のもと、廃止後の地域交通のあり方について代替バスへの転換等も含めた議論を行う中で、地域における鉄道という資産の重要性が再確認された。

■ 連絡先、参考 URL 等

連絡先：えちぜん鉄道 電話 0776-52-7788

福井県総合政策部総合交通課 電話 0776-20-0723

福井市都市戦略部交通政策室 電話 0776-20-5138

参考 URL：えちぜん鉄道 <http://www.echizen-tetudo.co.jp/>

■ 資料編



図. 様々なサービスを紹介する掲示板



図. サポーターズクラブ会員募集ポスター



図. レンタサイクル

資料編

7/30 サイクルトレイン					
福井行	福井着	三国港行	三国港着	福井行	福井着
10:41	→ 11:04	9:05	→ 9:40	8:35	9:33
13:11	→ 13:34	11:41	→ 12:10	10:35	11:33
15:41	→ 16:04	14:11	→ 14:40	12:35	13:33
18:11	→ 18:34	16:41	→ 17:10	14:35	15:33
				16:05	17:03
				18:05	19:03

図. サイクルトレインの案内



図. バスとの連携 (永平寺口駅)



図. 古い駅舎も改装してきれいに